

編 集 後 記

2009/2010 冬季は暖冬が予測されていましたが、12 月から 1 月にかけては大雪となりました。2009 年 12 月には新潟空港が閉鎖となる大雪が新潟県の平野部でありましたが、この時は季節風が弱く、海上に停滞した雪雲からの降雪が新潟市にもたらされました。長岡の雪氷防災研究センターでも 2010 年 1 月に積雪深が平年の最大積雪深を越え、過去 42 冬季で歴代 4 位タイとなる日降雪深を観測しました。冬季全体で暖冬であることと少雪とはイコールではありません。2004/2005 冬季が暖冬ながら局地的豪雪となったことがよい例です。また、季節予報にもまだまだ課題があるというのが現状でしょう。4 月になったときには山地も含めて今冬の雪はどう言われているのでしょうか。

降雪、積雪の様相は年によって大きく異なるのですが、それを科学的に説明するには物理的

理解に加えて多量あるいは長期間のデータの処理と統計も必要となります。会員の皆様は、観測、実験、調査で得られたデータをどのように管理されてみえますでしょうか。また一方で、自治体や現業機関で得られた過去の積雪、気象観測データについては、紙記録の廃棄や最近の自治体合併等による散逸も危惧されます。事実を記録したデータは古いものでも科学的には意義があり、世に出す場所として学会誌は最適な媒体です。皆様お手持ちの観測、観察、記録について、未発表のもの、再解析したものなどぜひご投稿下さい。身近で存在をご存じで整理されていない雪と氷のデータがありましたら、ご紹介だけでも原稿にしてみませんか。『雪氷』では雪と氷の科学に関係する様々な記事をお待ちしています。

(中井専人)